

主権者及び消費者の育成に係る指導の充実に関する実践研究
令和 6 年度実施報告（概要）

団体名： 千葉県教育委員会

1. 類型

【類型Ⅰ②】主権者に必要な資質・能力の育成に係る高等学校における実践
(ア. 公民科における指導)

【類型Ⅰ②】主権者に必要な資質・能力の育成に係る高等学校における実践
(イ. 特別活動における指導)

2. 実践校について

実践校名	ちばけんりつしろいこうとうがっこう 千葉県立白井高等学校	
全校児童・生徒数	実践研究の対象	
7 2 0 人	(学年) 第 3 学年	(生徒数) 2 1 5 人

3. 実践校における実践内容

(1) 概要

大学や UR 都市機構等，地域の外部機関と連携しつつ，公民科を中心とした教科等横断的な主権者教育の学習プログラム（北総鉄道の運賃値下げを含むまちづくりをテーマとした探究活動，白井市の歴史に関する企画展の開催，学習成果をまとめたアプリ（英語版含む）の開発）を開発し，実践する。また，課題研究等の成果を地元自治体に提言したり，自治会の行事と連携したりする。

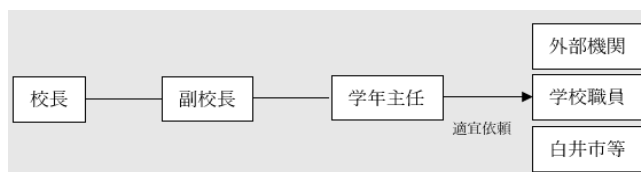
(2) 2年目(令和6年度)の実践内容

これまでに実施した内容を踏まえ以下の 3 点を実践した。

- ①生徒自らが希望する未来を実現させる「ボランティア」を主体的に作り出す
- ②「政治・経済」の授業にて，折り合いをつけ，合意形成した意見の確立
- ③東京電機大学やシステムエンジニアと連携しアプリ開発

①は，これまでの学習の結果，生徒が「やるべき」と考えたことを実際に実行した。その場合，既存のボランティアがあるとは限らないので，自らでボランティアを創り出していった。②は生徒がこれまでに考えた「やるべきこと」について，意見の合意形成を図った。③はこれまでの活動について，アプリケーションを開発することで表現した。

4. 実践校における実施体制



5. 各研究テーマについて、2年目の実践を踏まえた成果等

【類型Ⅰ②】主権者に必要な資質・能力の育成に係る高等学校における実践 (ア. 公民科における指導)

く生徒が社会的事象に興味・関心を持ち、自分事として捉えながら、生徒に考えさせる教育活動を行うため、どのような指導上の工夫が考えられるか。＞

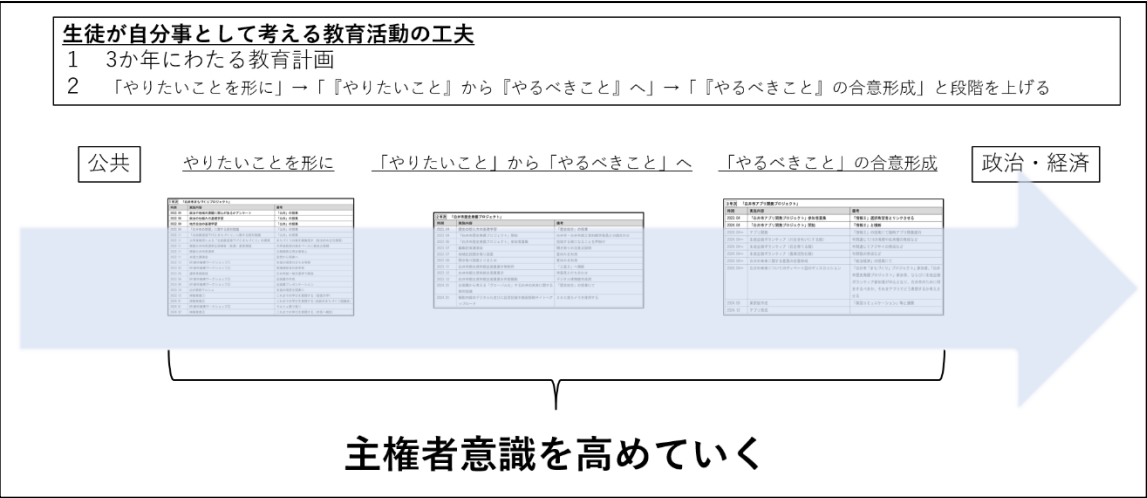
この件に関する工夫は、3か年にわたる教育計画をたて、その計画において徐々に主権者意識の質の段階を上げていったことである【資料1】。この結果、入学直後は政治に興味を持っている生徒が30%未満であったが、プロジェクト終了が近づいた段階では86%の生徒が政治に興味があったと答えた。生徒の感想をみると「はじめはとりあえず参加していたけど、参加してから興味がわいてこんなに重要なものなんだと認識することができた」とか「白井市の課題について知りそれを自分たちで改善策をだしそれをどう実現するかについて考えることを1年からやってきたのが良い体験だった」などを書いてくれた【資料2】。

また、すべてのプロジェクトに参加したある生徒の意識の変化を追ってみる。まずプロジェクト開始前は「政治はむずかしくわかりにくいが少しは知っておいた方がいい」と、政治に対して前向きな印象を持っておらず、政治に「とても興味がある」「少し興味がある」「あまり興味がない」「興味がない」の4択では、「少し興味がある」「あまり興味がない」の両方を選択していた。しかし、やりたいことを形にした「まちづくりプロジェクト」の感想では、マルシェについて「やる前はやったとしてもあまり人は集まらないかもとネガティブな想像をしていたが、かなりの賑わいで、これからもこのような活動をして白井を盛り上げたい」としており、主体性と自己肯定感を高められたことが伺える。そして、そこから「やるべきこと」の考察までを目指した「歴史発掘プロジェクト」終了後は「鉄道が通っているところばかり発展しているので、通っていないところを自然を活かした施設にし、行き来しやすくすることで住みやすくするべき」と、地域にとって何が必要なのかまで考えられるようになっていく。最後に、合意形成を目指した「アプリ開発プロジェクト」では「話合う前は白井市に新しいものをどんどん作って発展させるべきだと考えていたが、相手側の意見を聞いて、市には既に誇れるところも多々あることに気づかされたので、多くの人にそれを知ってもらえるような「開発」をするべきと考えた」と感想を書いている。とにかく新しいものをつくる開発が大切だと思っていたようであるが、異なる意見を聞いたことをきっかけに、考えを柔軟にして、共通の方向性を導き出そうとしていることがわかる【資料3】。そして、政治に「とても興味がわいた」「興味がわいた」「興味がわからない」「全く興味がわからない」の4択では「とても興味がわいた」を選択し、現在、実際に「開発」に向けた行動をしている。自分事として捉えていることが伺える。

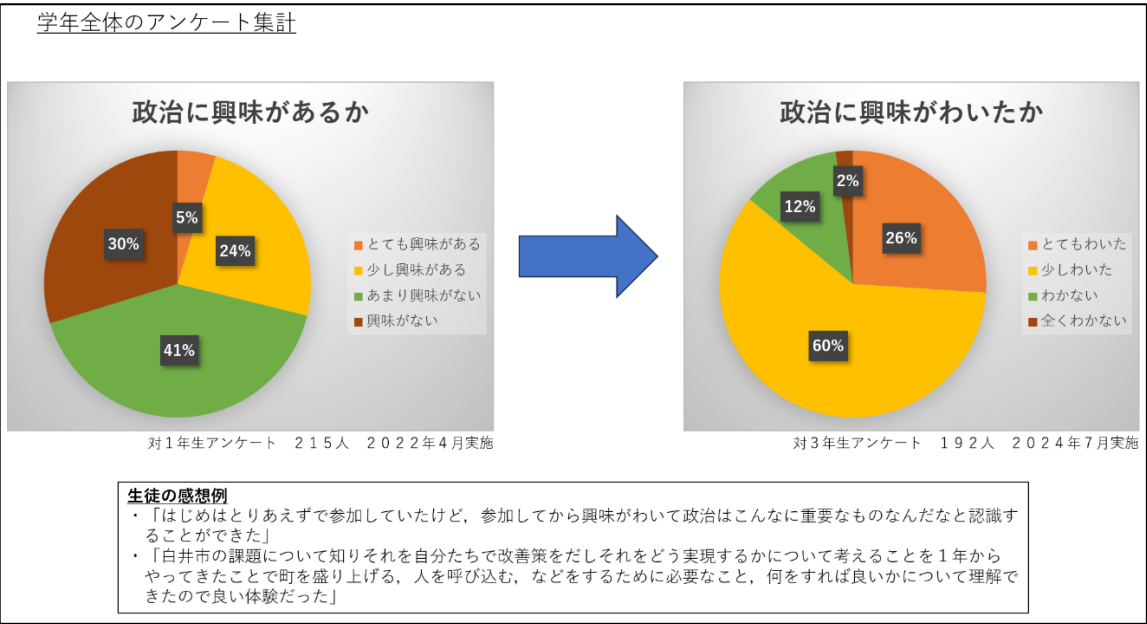
これらのことから、3年間のカリキュラムマネジメントにより、最終的に意見を合意

形成して納得解を見出していくことをあらかじめ計画し、教科等を関連付け、外部と積極的な連携を展開することで、特に興味・関心を高められると考えられる。

【資料 1】



【資料 2】



【資料 3】

すべてのプロジェクトに参加した1人の生徒の意識変化	
	「政治はむずかしくわかりにくいけど少しは知っておいたほうが良い」 →「政治に少し興味がある」（「あまり興味がない」も選択）
白井市まちづくりプロジェクト	
やりたいことを形に	「（マルシェについて）やる前はやったとしてもあまり人は集まらないかもとネガティブな想像をしていたが、かなりの大賑わいでこれからもこのような活動をして、白井を盛り上げたい」
白井市歴史発掘プロジェクト	
やるべきことの考察	「鉄道が通っているところばかり発展しているので、通っていないところを自然を活かした施設にし、行き来しやすくすることで住みやすくするべき」
白井市アプリ開発プロジェクト	
集団の合意形成	「話合う前は白井市に新しいものをどんどん作って発展させるべきだと考えていたが、相手側の意見を聞いて、市には既に誇れるところも多々あることに気づかされたので、多くの人にそれを知ってもらえるような「開発」をするべきと考えた」 →「とても政治に興味わいた」
⇒3年間のカリキュラムマネジメントにより最終的に意見を合意形成して納得解を見出していくことをあらかじめ計画し、教科等を関連付け、外部と積極的な連携を展開することで、特に興味・関心を高められると考えられる。	

＜発達段階に応じた情報活用能力の育成(特に、社会的事象に関する情報を収集し、その情報を公正に判断し、自分の意見をもつこと)に関して、どのような指導上の工夫が考えられるか。＞

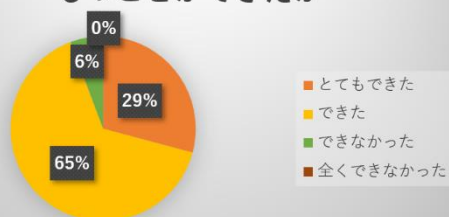
発達段階に応じた情報活用能力の育成に関しては、スマートフォンを使用して調査するところからはじめた。そしてパワーポイントを使用した発表をしたり、情報の取り扱いに関する講演会を開いたり、リーサスや ZOOM などでの聞き取りをしたりと、そのレベルをあげていった。生徒のアンケートをみると、SEO 対策や著作権の問題などを徐々に意識するようになっていったことがわかる【資料 4】。情報機器の便利さと難しさ、注意点等を学ばせる点において、一定の成果を出せた。

【資料 4】

情報活用事例

- 1 スマートフォンにて調査
- 2 パワーポイントを使用した発表
- 3 調査やまとめ方に関する講演会
- 4 リーサスやZOOMなどでの聞き取り

様々な情報から自分の意見をもつことができたか



対3年生アンケート 192人 2024年7月実施



生徒の感想例

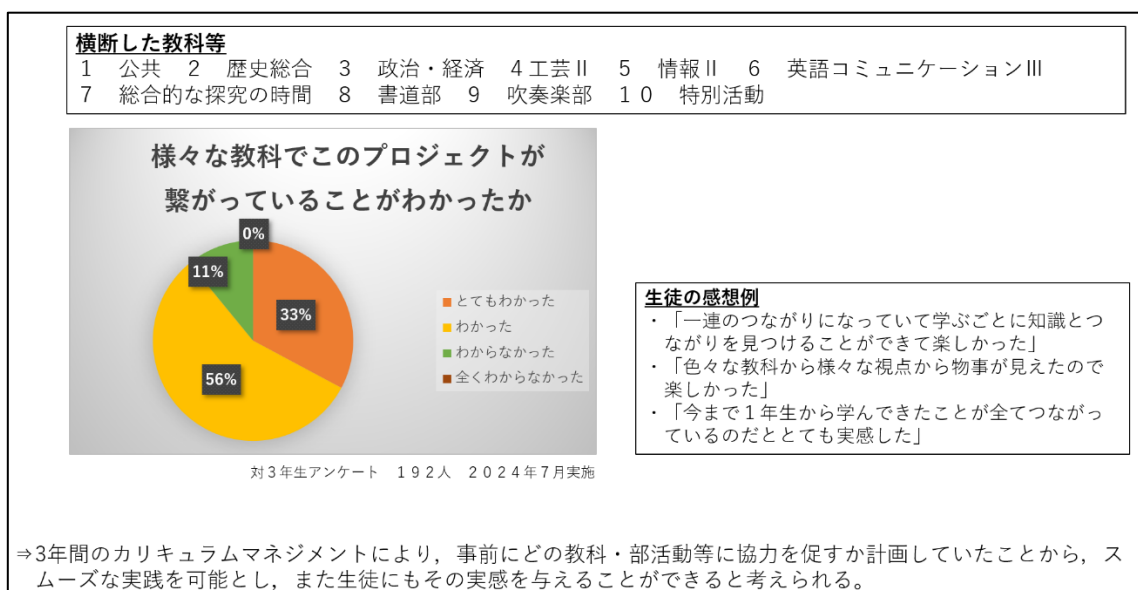
- ・調査する時はキーワードを多くしてその後調べたときに出てきやすくなるというSEO対策の工夫が大切だとわかりました。
- ・著作権、肖像権を侵害してしまう可能性があるのを確認する。

⇒スマートフォンの活用から始め、パワーポイントの使用、その後リーサスやZOOMでの調査と徐々に高度なものへ進展させていくこと、また、実際に調査や取りまとめを仕事にされている専門家からの講演を取り入れることで、情報活用の意識を高め、明確な意見を持てることを実感させられると考えられる。

＜教科等横断的な学習を充実するために、教育課程の編成に当たってどのような工夫が考えられるか。＞

次に、教科等横断的な学習を充実するために実施した工夫に関しては、水面下で職員へ事前に打診をしていたことで、授業に組み込んでもらうことを重視した。その結果、生徒の約90%が授業などで連動していることを実感してくれた。さらに感想をみると「一連のつながりになって学ぶごとに知識とつながりを見つけていくことができて楽しかった」とか「今まで1年生から学んできたことが全てつながっているのだととても実感した」などと、その効果も認められた【資料 5】。このことから、事前の計画性がいかに重要か伺えた。

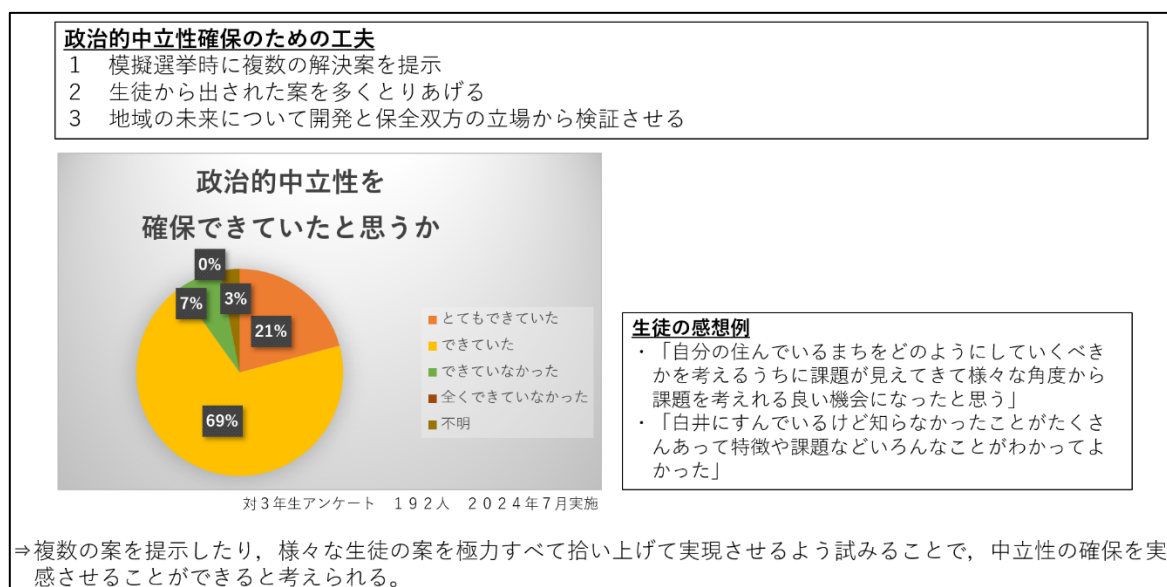
【資料 5】



＜政治的事象について扱ったり、実際の選挙の機会を活用したり、議員を招へいしたりする学習活動を行う際、政治的中立性を確保するための取組に関して、どのような工夫が考えられるか(該当の取組がある場合)。＞

政治的中立性に関する工夫は、例えば「まちづくりプロジェクト」における模擬選挙時に、必ず複数の案を生徒へ提示したことがあげられる。大学准教授への講演においても、政治的中立性を保つ目的で、複数案を提示してもらうことを依頼しておいた。また、生徒から出てきた案は、極力すべて紹介し、否定しないようにした。そして「歴史発掘プロジェクト」における証言者については、様々な立場の方から証言をいただくようにした。さらに生徒同士で対立する意見は「アプリ開発プロジェクト」にて合意形成を図った。その結果、生徒の90%は、その中立性が確保されていたと実感してもらえた【資料6】。様々な案が出されると、取捨選択の場面に迫られるが、特定の案を簡単に切り捨てないようにすることが大切であると思われる。

【資料 6】



【類型Ⅰ②】主権者に必要な資質・能力の育成に係る高等学校における実践

（イ. 特別活動における指導）

＜生徒が学校生活の充実と向上に主体的に参画することを促すため、どのような指導上の工夫が考えられるか。＞

続いて学校生活に主体性を持つ点に関しては、具体例を上げる。模擬選挙を実施した際、終了後にアンケートを実施した。ここで生徒から「写真や名前が映像で流れたことが分かりやすかった」とか「政策が論点2つ箇条書きになっていたのが分かりやすかった」などの意見が出てきた。そこで、2024年度の生徒会選挙の際、生徒会担当の職員に依頼し、演説時の背景に写真や名前、政策を写すなど実施していただいた。これが功を奏したのかはわからないが、例年本校の生徒会選挙はすべての役職で定員以内の立候補者しか出ず、信認するかしないかの選挙だったが、この年だけは、すべての役職で定員をオーバーし、競争選挙となった。これは管見のかぎり本校で起きたことの無い現象である。選挙後、ホームルームにてアンケートを実施すると、「候補者の話を聞いて自分の利益だけではなくみんなの利益になるような意見を選んだ方がみんなの学校生活はいい方向に進んでいくと思う。」など、意識の高い意見が多くなった【資料7】。このようなことが起きたのは、別途原因がある可能性は十分ある。多少なりとも、今回の事業がその一因になっていれば幸いである。いずれにしても、事業の成果を生徒の日常生活にどう応用させていくことができるか、それを考え、実行していくことがとても大切であることに間違いはない。

また、関係者や職員へのアンケートにおいても、客観的視点から主権者意識を高められていたという意見を多くいただけた。しかも楽しんで取り組んでいただけたようである。私たち大人が楽しんで実施することが生徒の意欲にも関係するのかもしれない【資料8】。

【資料7】

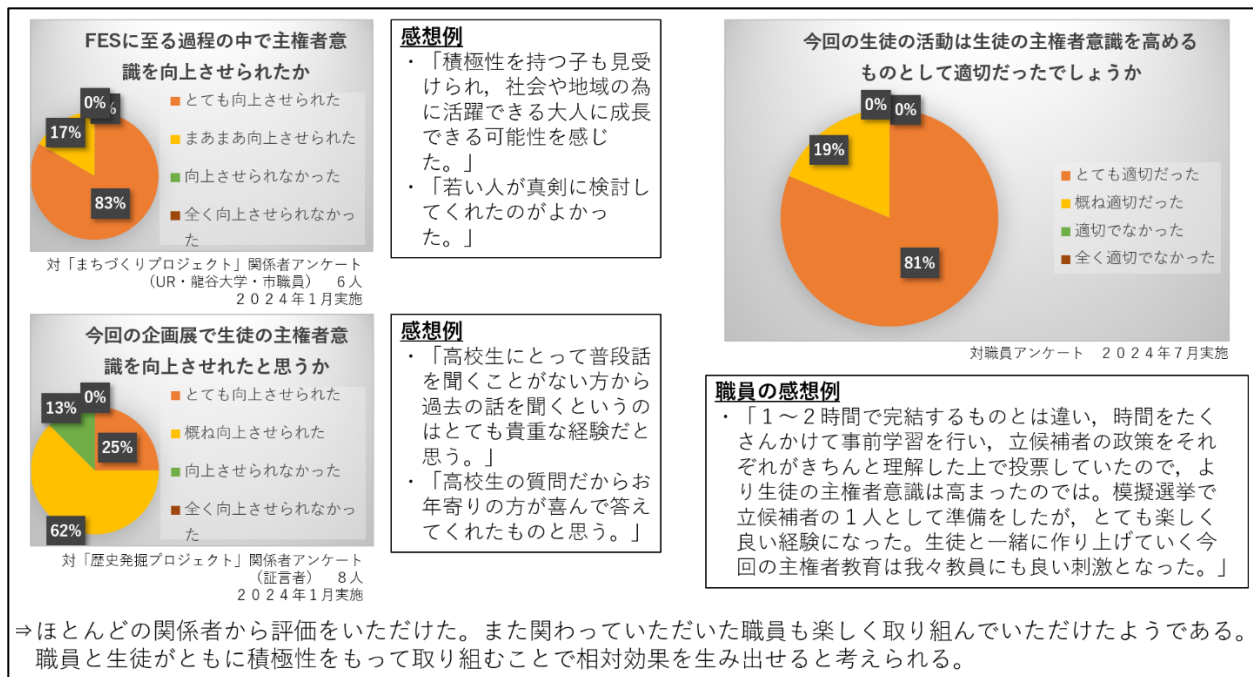
学校生活の充実と向上に主体的に参画するための工夫

- 1 模擬選挙の良かった点をアンケート
- 2 生徒会選挙に応用する
- 3 生徒会選挙後にアンケート



⇒今回の実践を生徒会選挙に応用させた結果、例年になく生徒会選挙が充実したものになった。実践研究で得た生徒の意見を日常の学校生活に取り入れることが大切であると考えられる。

【資料 8】



＜全ての教師が趣旨を理解し協力して関わることのできる、学校全体としての取組とするための校内体制構築に関して、どのような工夫が考えられるか。＞

すべての職員が関わって学校全体の取組とするための校内体制に関しては、委員会を創設するなどしたが、少し考えなければならなかったことがあった。もともとこの計画は、担当者の個人的なものであり、協力を仰ぎたい職員には、その都度内容を説明して、御協力いただけるか確認しながら実施していた。すなわち、学校全体の取組という訳ではなかった。計画2年目を迎える2023年度に文科省事業「主権者及び消費者の育成に係る指導の充実に関する実践研究」の公募があり、これまでの実践内容と今後の予定について企画書を提出したところ採択していただいたため、ここではじめて学校全体としての取組を意識することになった。そのような状況での委員会創設であったこともあり、いささか強引さは否めなかった。

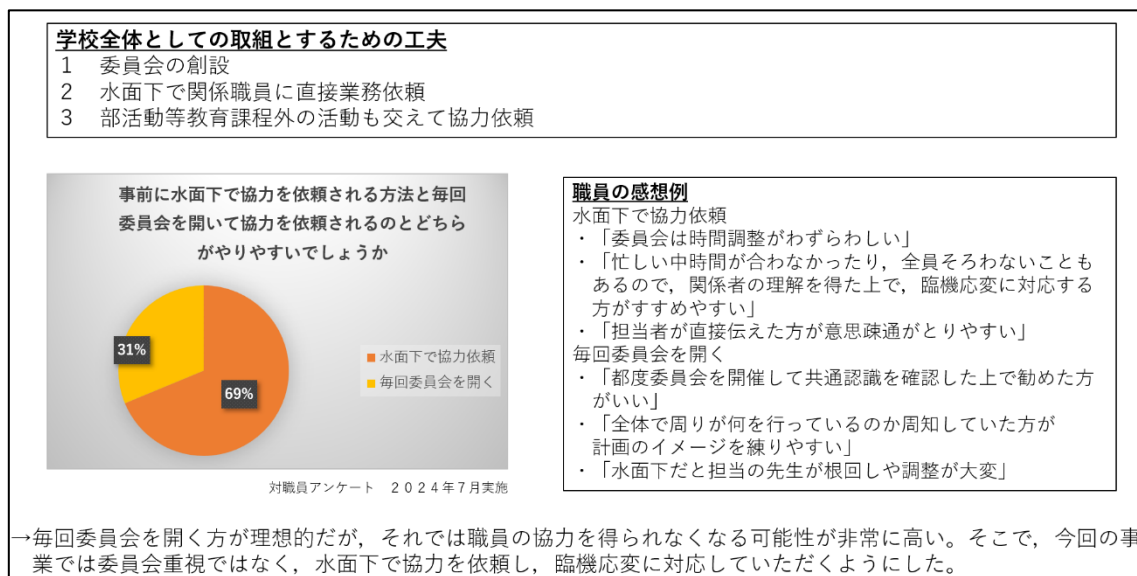
そこで、これまで通りその都度水面下で協力を依頼する方法か、定期的に委員会を開く方法か、どちらが職員にとってやりやすいか見定めることにした。結果は、多くの職員が委員会を開催することに反対であった。詳細なデータをとるため、後日アンケートを実施したところ、否定的な回答は実に70%に上った。その理由としては、やはり「多忙」があげられる【資料9】。委員会を開くことは学校全体の活動となって理想的ではあるが、職員の実態と合わず、協力を得られなくなる可能性が高い。そこで今回の計画は、3年間通して、水面下で事前に関係職員へ直接依頼をしたり、教育課程外の活動も交えて協力依頼したりするなどして、無理なく複数の職員に関わっていただくことにし、無理強いはいしなことを大切にしたい。

また、協力していただくにあたり、授業に組み込んでいただくのと、放課後などの自主的活動に組み込むのと、どちらの方がやりやすいかアンケートをとったところ、全く同じ割合となった【資料10】。興味深かったのは理由である。集中力を考慮したり、高い意

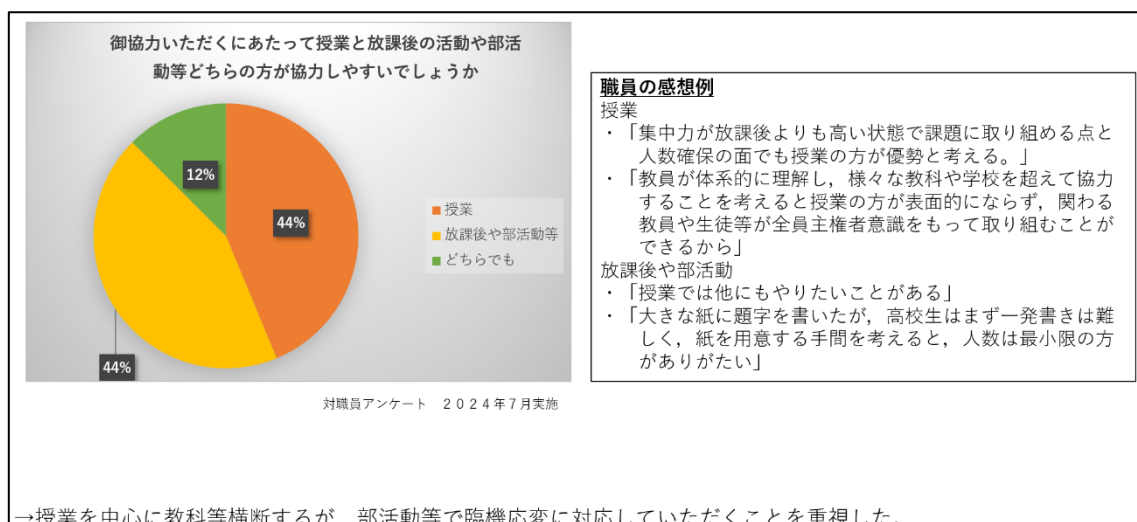
欲を目指したりするならば、やはり授業に組み込むのが理想である。しかし取り組む内容によっては、元来その職員が授業で実施予定であった計画を狂わせてしまう可能性がある。事業のために本来の授業内容を犠牲にしては本末転倒である。さらに、授業の人数では多すぎて大変困難な作業となる取り組みも存在する。以上のことを考えると、教科等横断は活動内容に応じて臨機応変に対処すべきであることが伺えた。

このようなアンケート結果をうけて柔軟に事業を進めて行った結果、最終的には、関わって下さった職員全員から批判的な意見は出なく、「とても有意義であった」など、非常に良い評価となった【資料11】。これは何より大きかった。批判的な声が上がりと、事業がやりにくくなるだけでなく、通常業務にも大きな差し支えが出る。現場としては、これだけは避けた。担当者が水面下で職員に協力を仰いでおき、どのような形ならば協力いただけるのか調査しておくことで、無理なく実施することが大切であると考えている。

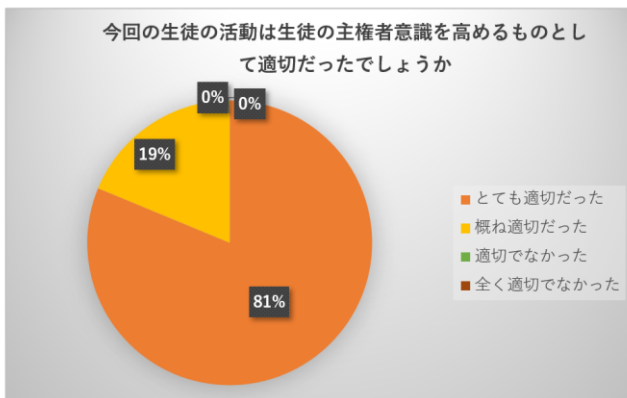
【資料9】



【資料10】



【資料 1 1】



対職員アンケート 2024年7月実施

職員の感想

- ・「多方面から通常の授業では体験しにくい活動を色々とさせてあげることで興味をもって学習活動に取り組めたのではないかな」
- ・「生徒一人ひとりが輝く場面があり、とても有意義な教育活動であった。地域との連携という部分で、人との関わり、1つのものを作り上げていく様子を見ると大成功だった。」

⇒直接協力を依頼することにより積極的に参加していただいた。何より活動に対する批判の声が聞こえてこなかった。これが非常に大きかった（批判の声が少しでもあがれば、事業がやりにくくなるだけでなく、通常業務にも大変大きな差し支えが出る）。このことから、担当者が水面下で諸職員に協力を仰いでおき、どのような形ならば協力いただけるのか調査しておくことが大切であると考えられる。

その他、生徒や地域の方へのアンケートによって、学校と地域社会の協力体制が非常に強化された事、一方で広報活動の必要性や活動内容の継続性を考えたり定期的な成果報告会を実施したりするべきであった事など、多くの成果と課題を確認できた。

主権者及び消費者の育成に係る指導の充実に関する実践研究
令和 6 年度実施報告（実践校における実践内容の詳細）

団体名： 千葉県教育委員会

1. 類型

【類型 I ②】主権者に必要な資質・能力の育成に係る高等学校における実践

（ア. 公民科における指導）

【類型 I ②】主権者に必要な資質・能力の育成に係る高等学校における実践

（イ. 特別活動における指導）

2. 実践校名

千葉県立白井高等学校

3. 実践校における令和 6 年度の実践内容

1 年次 「白井市まちづくりプロジェクト」		
時期	実施内容	備考
2022. 04	政治や地域の課題に関心があるかアンケート	「公共」の授業
2022. 06	政治の仕組みの基礎学習	「公共」の授業
2022. 09	地方自治の基礎学習	「公共」の授業
2022. 09	「白井市の課題」に関する班別協議	「公共」の授業
2022. 11	「北総鉄道値下げとまちづくり」に関する班別協議	「公共」の授業
2022. 11	大学准教授による「北総鉄道値下げとまちづくり」の講演	まちづくりの案を複数提示（政治的中立性確保）
2022. 11	模擬白井市長選挙立候補者（教員）選挙演説	大学准教授の案をベースに数名立候補
2022. 11	模擬白井市長選挙	立候補者は男女複数人
2022. 11	弁論士講演会	空想から現実へ
2022. 12	UR 都市機構ワークショップ①	生徒の理想のまちを考察
2023. 03	UR 都市機構ワークショップ②	現場視察を含め再考察
2023. 04	選挙事務実践	白井市統一地方選挙で実施
2023. 06	UR 都市機構ワークショップ③	企画書の作成
2023. 09	UR 都市機構ワークショップ④	企画書プレゼンテーション
2023. 10	白井駅前マルシェ	生徒の理想を現実に
2023. 12	体験発表①	これまでの学びを表現する（聖徳大学）
2024. 01	体験発表②	これまでの学びを表現する（地区のまちづくり協議会）
2024. 01	UR 都市機構ワークショップ⑤	マルシェ振り返り
2024. 02	体験発表③	これまでの学びを表現する（市長へ報告）
2 年次 「白井市歴史発掘プロジェクト」		
時期	実施内容	備考
2023. 04	歴史の捉え方の基礎学習	「歴史総合」の授業
2023. 04	「白井市歴史発掘プロジェクト」開始	白井市・白井市郷土資料館学芸員との顔合わせ
2023. 06	「白井市歴史発掘プロジェクト」参加者募集	投稿する側になることを声掛け
2023. 07	編集記者講演会	聞き取りの注意点説明
2023. 07	地域住民聞き取り調査	夏休みを利用
2023. 08	聞き取り調査とりまとめ	夏休みを利用
2023. 11	白井市郷土資料館企画展示物制作	「工芸Ⅱ」へ横断
2023. 12	白井市郷土資料館企画展示	学芸員と打ち合わせ
2024. 01	企画展から考える「グローバル化」する白井の未来に関する班別協議	「歴史総合」の授業にて
2024. 07	展示物撮影	360度カメラを使用する
2024. 11	デジタル博物館化	デジタルにして記録を残す
3 年次 「白井市アプリ開発プロジェクト」		
時期	実施内容	備考
2023. 04	「白井市アプリ開発プロジェクト」参加者募集	「情報Ⅱ」選択希望者とリンクさせる
2024. 04	「白井市アプリ開発プロジェクト」開始	「情報Ⅱ」へ横断
2024. 04～	アプリ開発	「情報Ⅱ」の授業にて随時アプリ開発進行
2024. 04～	生徒企画ボランティア（川をきれいにする班）	年間通じて川の清掃や在来種の育成など
2024. 04～	生徒企画ボランティア（花を育てる班）	年間通じてアジサイの育成など
2024. 04～	生徒企画ボランティア（農業活性化班）	年間通じて稲の育成など
2024. 04～	白井の未来に関する意見の確立	「政治・経済」の授業にて
2024. 04～	ディベート型のディスカッションにて意見の合意形成	「白井市まちづくりプロジェクト」参加者、「白井市歴史発掘プロジェクト」参加者、ならびに生徒企画ボランティア参加者が中心となり、白井市のために何をすべきか、学年全体の考えを合意形成する
2024. 09	英語版作成	「英語コミュニケーションⅢ」等へ横断
2024. 12	生徒成果発表会	お世話になった方々へプロジェクト成果を発表する
2025. 01	アプリ完成	

令和 6 年度
実施

「白井市アプリ開発プロジェクト」

大きく分けて3つの計画がある。

- ①生徒自らが希望する未来を実現させる「ボランティア」を主体的に作り出す
(川をきれいにする・花を育てる・農業を活性化する)
- ②「政治・経済」の授業にて、折り合いをつけ、合意形成した意見の確立
- ③東京電機大学やシステムエンジニアと連携しアプリ開発

①は、「まちづくりプロジェクト」「歴史発掘プロジェクト」を経た結果、個人が「やるべき」であると考えたことを実際に実行する。その場合、既存のボランティアがあるとは限らないので、自らでボランティアを創り出していく。生徒が創り出したボランティアは、長年市民にとって支えとなっている神崎川やその周辺をきれいにすること、誰もが嫌がらないであろう花をベースにまちづくりを展開するため花を育てていくこと、農業が元気なため農業を活性化させること、この3点である。それぞれの活動を紹介する。

・川をきれいにする

この班は「神崎川で遊んだ」と多くの証言者の方がおっしゃったことから、神崎川を守ろうと考えたメンバーで構成されている。市民団体「神崎川を守るしろい八幡溜の会」に協力いただいた。神崎川上流のビオトープ池を復活させ、生き物の住処を造る作業をした。荒れていた池を掘り起こし、掘った土は土嚢に入れて別の目的で使用する。池を完成させて、在来の生き物が住み着いてくれるようにした。



次に、市の指定文化財になっている野馬除土手の補修である。珍しく水流が流れているが、人工物などの影響で崩れてしまっている部分がある。そこで池を造った際の土嚢を、崩れた部分に積んでいった。この土嚢は、やがて自然に戻るものを使用している。一つひとつ隙間のないように丁寧に踏んだ。かなり重い土嚢を何回も運んで大変だったが、文化財の補修という貴重な体験ができた。



そして川の掃除である。地域の方々に何十年と愛され続けている川を大切にしたいとい

う想いを形にした。



・花を育てる

この班は証言記録の中の「花を嫌がる人はいないので、花を中心にまちづくりをしてみるのはいかがでしょうか」という言葉に感銘を受けたメンバーで構成されている。そこで市民団体「六見会」に協力いただき、アジサイを育てさせていただくことになった。すでにこの段階において、小型ポットでアジサイを育てられていたため、それを大きいポットに移す作業を実施した。移し替えたポットの一部を、メンバーが協力して学校で育てて、やがて花壇に移し替えることとした。

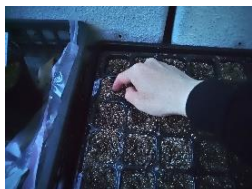


学校で生徒が順番に水をあげていった。順調かと思っていたが、葉が完全に散ってしまったことに生徒はショックを受けていた。しかし諦めずに世話を続けたところ、つぼみのようなものが見えてきた。そして立派な葉が生えてきた。上手くいかないこともあったが、信じて世話を続けた結果、立派な葉が育った。今年度は花が咲くところまでいかないかもしれないが、後輩に引き継ぎ、いずれ花を咲かせてほしいと、生徒は願っている。



- ・農業を活性化する

この班は「農業が廃れてきてしまった」と証言者の方がおっしゃったことから、自分たちも農作業を経験して、農業のおもしろさを広めようとしたメンバーで構成されている。そこでバケツにて稲を育てることにした。ここでも市民団体「神崎川を守るしろい八幡溜の会」に協力いただいた。まずは種もみをシャーレに入れて水を浸し、芽出しさせた。芽が出たら種まきをした。



葉が出て成長してくると、苗をバケツに移動させた。バケツの中に土を入れ、その後苗を植えた。バケツは3つ用意し、中の土の配合を変えた。途中までとても順調であったが、どのバケツも穂が実らず、稲が枯れてしまった。無事に稲穂が実った場合は、家庭科部に横断して、実った米を食すつもりであったが、想定通りにいかなかった。しかし、むしろ上手くいかなかったことで、白井の農業を活性化する方法を深く考えていくきっかけとなった。

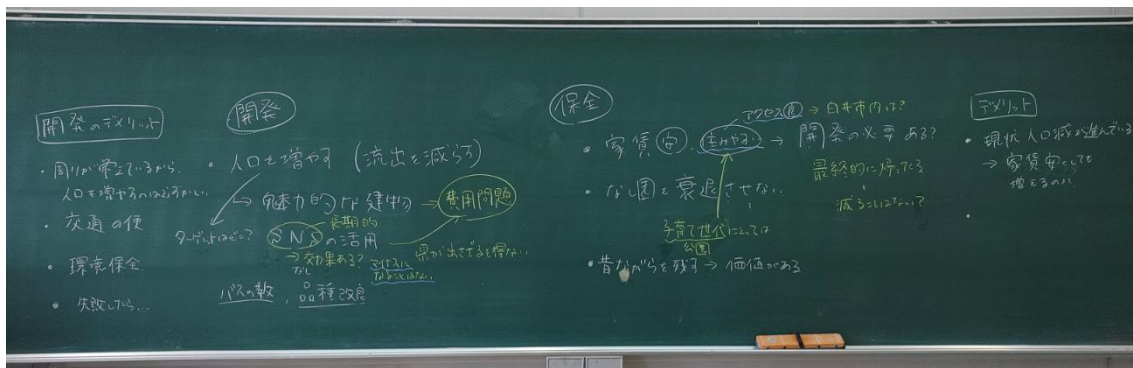


このように①の経験は自然を相手にしている。自然は人工物ではないため、良くも悪くも想定通りにいかない。この想定通りにいかない経験が、次の②（合意形成）につながったと考えている。

続いてその②である。2021年度主権者教育推進会議の「今後の主権者教育推進にむけて」（最終報告）によれば「主権者教育を推進する上では、正解が一つに定まらない論争的な課題に対して、児童生徒が自分の意見を持ちつつ、異なる意見や対立する意見を整理して議論を交わしたり、他者の意見と折り合いを付けたりする中で、納得解を見いだしながら合意形成を図っていく過程が重要」とされている。そこで「まちづくりプロジェクト」「歴史発掘プロジェクト」を経て、生徒が考えた「やるべきこと」について、意見の合意形成を図っていくことを目指す。生徒の「やるべきこと」を大きく2つに分けると「保全」に力を入れるか「開発」に力を入れるか、に分けられる。そのため、「政治・経済」の授業にて、自分はどちらの考えか、判断基準を根拠に議論することとした。それぞれの立場に分かれた後で、ディベート型のディスカッションを実施し、各クラスで試みたが、最終的には代表者による少人数のディスカッションで学年全体の結論を出すことにした。



それぞれの立場から主張した後、相手の意見に対しての反論の時間も設けた。一方で、相手の意見に納得できるところも必ず指摘するようにした。司会も生徒が務めた。以下、生徒たちのまとめた結果である。



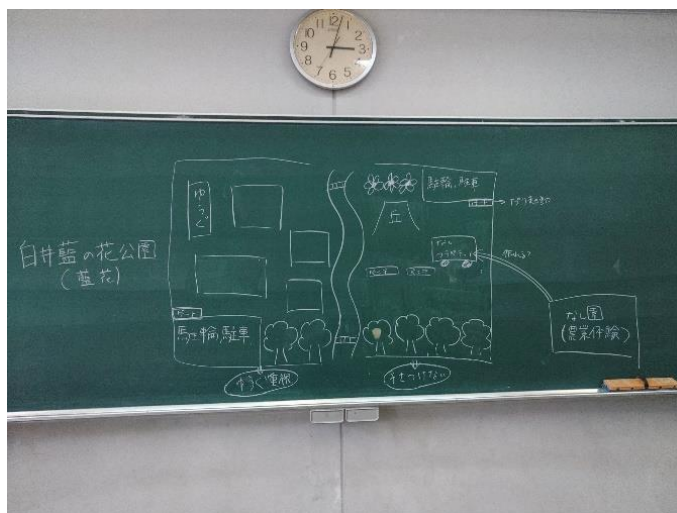
反論 開発から保全へ ・都心まで便利なのはいいが、市内の移動手段が少ない。特にバスの交通。開発するべきでは。いずれは東京にいつってしまうのでは。 ・保全のいいところが見えにくい。お年より世代は住みやすいかもしれないが、地域の方との話合いで、子育て世代は住みにくいという声を聞いた。開発したほうがいい。 ・千葉ニュータウンよりも都心に近いことを売りにしている。開発のレベルをもっとあげれば千葉ニュータウンに近づける。今負けているから頑張らないのではなく、そのレベルまで上げる。 ・双方ともにメリット・デメリットがある。開発だからデメリットが保全より大きいというのは間違っている。そこにかけるお金の分量によって開発も保全もメリット・デメリットがある。 ・家賃の安さを主張していたが、すでに人口が減少しているので放置は解決にならない。 保全から開発へ ・費用を捻出できないのでは。SNS を活用し白井市に価値をもたすことで県を動かすといっても現実的ではないのでは。 ・SNS が上手く伸びなかったらどうするか。	納得 開発 ・梨を守る意見には納得。 ・「開発」とは建物をつくることばかりではない。公園をつくることも「開発」である。 保全 ・SNS 活用にマイナスがないことは納得。 ・梨の品種改良。
---	---

一見すると話がまとまらなくなるような状況が続いたが、諦めずに議論を続けていったところ、徐々に双方の意見が近づいてきた。そして、生徒たちの出した納得解が「自然を「保全」した公園を「開発」していく」というものであった。

自然を「保全」した公園を「開発」していく

公園の特徴

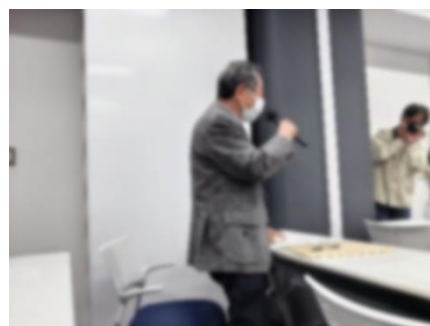
- ・ターゲットは子育て世代。
- ・印西に「花の丘公園」という公園がありイベントをたくさんやっている。白井も真似をしたらどうか。
- ・温室や池や桜並木や川がある。
- ・開けた場所で子供も遊んでいる。開けていて見やすくいい。下手に何か作らなくてもいい。広さを活用するべき。いっそもも置かない。勝手に遊ぶ。
- ・花を植えて自然を大切にすると来ている方も楽しいかも。
- ・遊具の充実。
- ・危険を減らすために公園の使える場所を年齢別に分けて安全性を確保。
- ・ターゲットが子育て世代だから安全性を求めるのがいいのでは。
- ・遊具がある場所と遊具がない場所に分ける。
- ・山がある川がある公園。
- ・季節の花が咲いている公園。
- ・アプリで公園内に入るとそのことを通知してくれて安全を確保できる公園。
- ・公園内にカフェ。そこで梨のフラベチーノ。そこに梨園。



この公園には「まちづくりプロジェクト」で実施した梨のスムージーを販売するカフェや「歴史発掘プロジェクト」で学んだ花でまちおこしをするといった内容が盛り込まれている。これまでの成果を1つにまとめた結論であった。なお、公園の名称は「白井藍の花公園」と名付けたようである。本校の校章である「藍の花」を名乗ることによって、白井高校の生徒の想いが詰まっていることをアピールしている。そして、イラスト部の生徒によって、この公園のイラストを作成した。



最後に1年次から3年間かけたプロジェクトの過程と結論を、市長やお世話になった方々へ報告し、御講評をいただいた。



このような合意形成が可能となった背景には、先にも触れた「想定通りにいかない経験」がある。この経験が独りよがりの考えを柔軟にし、自分の考えを持ちつつも、相手の考えに耳を傾ける姿勢を持たせられたのではないかと考えている。大変重要なポイントであった。

そして③は、これまでの活動をアプリで表現するものである。アプリの内容は、地図上のある地点をタップすれば、その地点における生徒の活動内容の紹介が表示されるというものである。「情報Ⅱ」の授業や吹奏楽部、「英語コミュニケーションⅢ」と横断した。そして東京電機大学、システムエンジニア、ならびにアンバーテック株式会社と連携して開発した。まず吹奏楽部や「英語コミュニケーションⅢ」では、アプリの素材を作成していただいた。すなわち、アプリ内 BGM と、アプリの英語版における英訳である。



そして東京電機大学と打ち合わせを重ね、「Unity」というゲームエンジンを使用することとなった。テストアプリを作成していただき、その内容を「情報Ⅱ」の授業で触れることとした。最終的にはシステムエンジニアの助言のもと少人数の活動で完成させた。このように、文理分断からの脱却を図ると同時に、学年の生徒全員が深くプロジェクトに関われるよう工夫した。



最後に、アンバーテック株式会社からアプリケーションのアップロード方法を学び、後日本校ホームページにこれまでの活動内容を掲載して、今回の事業を終了させた。なお、本校ホームページは、以下の二次元コードから閲覧可能である。

